

猛暑の中、第5回身障連納涼まつり開催！ 冷たい生ビールで交流深める

長岡身障連かわら版

猛暑が続いた8月6日(日)、アオーレ長岡西棟1階の交流ホールAで、第5回身障連納涼まつりが開かれました。

新型コロナの影響で3年間、中止になっていた本連合会最大のイベントですが、この日も最高気温37度以上の酷暑の中、開会時刻の午後1時半前から会員、お客様、総勢100人以上の皆様が次々に集まり、オープン前から飲み放題の冷たい生ビールやお酒、ソフトドリンクで喉を潤していました。

オープンセレモニーで身障連の藤田芳雄会長は「転んだら火傷をするというほどの猛暑の中、例年より多くのお客様をお迎えして、4年ぶりに開催できたことに感謝している。今日が広島原爆の日と重なったことで、平和であることに感謝しながら楽しみ、交流を深めよう」と挨拶。この催しは会員相互の親睦と併せ、日頃、ご支援をいただいている福祉関係者をはじめ、家族や友人、知人との交流や理解を深める目的で開催。この日もご多忙の中、駆けつけていただいた福祉保健部の水島幸枝部長は「皆さんの顔が生き生きしていることを嬉しく思う。こういう催しが長く続いていくことを願っている。」と挨拶され、定刻の1時半に長岡市社会福祉協議会の木我正章事務局長の乾杯後、早速、会場中央に設置された各障害者協会やボランティアの皆さんのブースで、枝豆や焼き鳥、野菜などを買い求め、笑い声や笑顔の中であちこちでジョッキを傾ける姿が見られました。

歌手で司会のアッピーさんの進行で、ステージイベントも次々に繰り広げられ、まずは藤田会長のテナーサクスの演奏からスタート!「ウイスキーが大好きでしょ」など、往年のムード歌謡が流れる中、たまらずに飛び出してきた数組の参加者が次々にダンスを披露。大きな拍手の中で会は一気に盛り上がりました。

この後、アッピーさんのリズムカルな歌と、これに合わせて踊る子供たちの姿が生き生きして、とても印象的でした。飛び入りの歌も出たりで会場はますます盛り上がる中、最後は恒例のベリードダンスショー! リーダー



のベスマ加奈子さんをはじめ5人のダンサーが会場せましく踊り、色とりどりのシルクのスカーフや太鼓で、会場の雰囲気は一気に最高潮に



達しました。

参加した会員のひとり、視覚障害者福祉協会の渡辺タカさんは「例年より出店したブースや、会員の参加者がすこし少なかったのは寂しかったが、みんな生き生きして、とても楽しかった。」と話していました。

お客様で参加されたシンクタンク・リバーバンクの鈴木重壺氏は「参加された皆さんの笑顔がとても印象的で、子供たちの踊りにも感激した。平和を大切にしたい。」と話していました。

【発行人】
長岡市身体障害者団体連合会
会長:藤田芳雄
令和5年夏号

第五地区ミュージックふれあい交流予選会 藤田さん・稲田さん見事予選突破!

4年ぶり第31回となる第五地区ミュージックふれあい交流予選会が、7月17日(月・祝)に刈羽村福祉センターいこえ~るにおいて開催されました。

当連合会からは、18人(肢体協7人、視障協5人、柘尾協会3人など)が参加しました。全体では、65人と例年より少ない参加となりました。

出場者は12人で、6人が10月の県大会に出場できます。皆さんとてもレベルが高く、審査員を悩ませることになりました。

厳選なる審査の結果、長岡身障連からは、最高得点の藤田芳雄さんと柘尾協会の稲田イヨさんが県大会に出場することになりました。(五十嵐政男さん、嶋田貞夫さんも予選に出場しました)

参加者からは、長岡から2人も予選突破できてよかった。また、お楽しみ抽選会では、たくさんのお土産に驚きの声も上がり、楽しいひとときを過ごしました。来年度は長岡市の開催当番ですが、第五地区の会議で協議されます。



藤田芳雄さん



稲田イヨさん

第五地区第12回スポーツ交流会 4年ぶりに開催!

6月18日(日)、柏崎市道の駅「西山ふるさと公苑」において、4年ぶりに第五地区スポーツ交流会が開催されました。

コロナ禍で休止している3年の間に、どこの協会でも会員の高齢化や減少などで今までのような参加者数が確保できないため、今年は大会ではなく「交流会」になりました。

今までのような協会毎のチーム分けでなく、各協会参加者が入り混じった4つのグループに別れ、ディスクゲッター、輪投げ、ボッチャ、卓球バレーの4種目を順にプレイします。

栃尾と中之島の参加者名簿が漏れていて、受付が少し混乱しましたが、事務局の素早い対応で予定どおり開会しました。

高橋壽一大会会長をはじめとしたご挨拶の後、それぞれの種目の位置について、競技方法の説明があり、プレイ開始です。

ボッチャやディスクゲッターは、今回初めて経験される方も多く、戸惑いながらも楽しくプレイしていました。

輪投げやディスクゲッターは、個人競技ですが、点数をカウントすることなく、プレイの順番が早く回ってくるため、皆さん少々疲れ気味でした。



卓球バレーは、チームワークが大切ですが、他の協会の方とも力を合わせてプレイするため、和気あいあいとなる種目でした。



開会式

ボッチャは、初めてボールを触る方が多く、遠近間や力加減が難しく、苦戦しながらのプレイでした。



ボッチャ

しかし、慣れてくると相手チームとの駆け引きが面白く、あっという間に終了時間になってしまいました。

進行がスムーズであったため、予定より早く閉会式となり、その後各協会毎にランチタイムです。久しぶりに顔を合わせた仲間とおしゃべりをしながら楽しいひとときを過ごしました。



輪投げ

道の駅には、田中角栄記念館も併設されていて視障協を中心に見学しました。

今年の交流会は柏崎と刈羽の方々を担当されましたが、お土産もたくさんいただき、ありがとうございました。また、各協会はもとより、各行政の方々、各社協の方々、スポーツ協会の方々、ボランティアの方々にも感謝申し上げます。

来年は長岡市が当番です。皆様のご協力をお願いします。

また、今回の交流会での反省点、改善点などありましたら、各協会の役員までお知らせください。



ディスクゲッター



ディスクゲッター的

「ミライエ」バリアフリー検証に参加して 肢体障害者協会 近藤哲雄

7月22日大手通にオープンした市の複合施設『ミライエ』の内覧会に 藤田会長はじめ3協会10人で、7月14日にバリアフリー検証を行いました。

施設の説明を受けながら、私たち身体障害者が利用するにあたり、設備や使い勝手など確認しました。

その後、改善してほしいところや要望について、市職員を交えて意見交換を行いました。

例えば、広大な施設でありながら思いやり駐車場は

2台分、貸出し用の車椅子は各フロアに1台分、さらには無料の駐車時間が30分で、障害者が車で来て利用するには困難ではないかななどの意見が出されました。



しかし、互尊文庫のスペースはゆったりとして、机・イスなども多く配置され、イベントの利用や図書館スペース以外では軽い飲食ができたりと素晴らしい施設がオープンしたと実感しました。私もぜひ利用してみたいと思います。

ザ・チャレンジド【第5回】

「命をかけた恋」 肢体障害者協会 秋山 イサさん (80歳・宮栄)



欧米では障害者を「チャレンジド」と呼ぶ。

このコーナーでは、障害がありながらスポーツや文化、ボランティア活動、そして社会における様々な場面で活躍する人たちの姿を浮き彫りにし、その生き方を通じて障害者のナマの姿、理解の促進につなげる。

去る6月18日、柏崎市で開かれた身体障害者スポーツ交流会に参加し、長岡に帰ってからの打上げの席で、秋山さんは大好きなビールを大ジョッキでグイと空けると、昔話を語ってくれた。

秋山さんは3歳の時に小児マヒで右足に障害を負った。中学を出ると、故郷の刈羽村を出て、新潟で1年間紳士服仕立の技術を学び、3年間住み込みで働いた。その後、長岡で7年間住み込みで仕事を続けた。

昭和43年3月頃、当時の市内繁華街、坂之上の観光会館4階宴会ホールで、障害者の集団お見合いが開かれた。その時、渡された名簿を見て、即座に「この人」と思い、彼と会った。彼は聴覚障害者。秋山さんは「初めて顔を見たその瞬間、思わずハツとした。それはそれはもの凄いいい男で… もう、一目ぼれ!」と声を弾ませる。

彼の名前は達夫さん、当時彼も秋山さんと同じ注文服の仕立て仕事をしていて、それも二人の運命を感じさせたという。当然、話題も気持もすぐに合った。

当時、悠久山公園は家族連れやカップルに人気のあったところで、休日になるとたくさんの人で賑わっていた。公園の中腹には、いくつかのだんご屋や食事処があって、そこで彼と二人で食事をした。

「その時、一緒にカレーを食べた記憶があるが、今

でもよく覚えているのが、彼のスプーンがカレーのお皿に小刻みに当たって『カチカチカチ』と鳴る音がした。私は驚いて彼の顔を見たんだけど、彼は耳が聞こえなかったせいか、あまりそのことは気にならなかったようなの。だけど、私にはそれがとても初々しく感じられ、かえって新鮮で好感が持てた。」と、思わず笑みがこぼれる。

彼はとても優しくかった。結婚したいと家族に申し出たところ、家族からは「足の悪い者と、耳の聞こえない人とは住む世界が違う。一緒にやっついていける訳がない。」と猛反対。すると秋山さんは「それならば家族の縁を切っても一緒になる!」と言い切ったのであった。

彼と初めて出会ったのが3月、二人の誠意が通じ、その年の11月には晴れて結婚した。その夫は平成8年10月に55歳の若さで他界。

秋山さんはカラオケが大好きで、若い頃から歌が上手いと評判だった。年1回、新潟で開かれる新潟県身体障害者団体連合会主催の「ミュージックふれあい交流会」では、キム・ヨンジャの「命火(いのちび)」で最優秀賞をとったこともあるほど。

秋山さんは80歳になる今でも現役で洋裁の仕事をお願い、「彼の分まで…」と、毎日、元気で仕事を続けている。(文責:藤田)

第56回新潟県身体障害者福祉大会

7月11日に第56回新潟県身体障害者福祉大会が新潟ふれ愛プラザにおいて開催されました。長岡市からは、視障協と肢体協から計7人が出席しました。

今年度の被表彰者は、功労者が2人、結婚30年以上が2組3人でした。

また、日身連会長表彰で、前県身連代議員会会長の西山真樹夫氏が功労者として表彰されたことが報告されました。

第56回 新潟県身体障害者福祉大会
令和5年度 地域団体研修会・会員総会



あいさつする藤田会長

その後、地域団体研修会が開催され、「だまされないで!悪質商法!」と題して、NPO法人新潟県消費者協会の消費生活サポーターあきはネットによる素人寸劇が披露され、笑いながら楽しく受講しました。

皆様も「私はだまされない」と思わずに、振込みの際には、誰かに相談することが大切です。

最後に会員総会が開催され、令和4年度公益事業の事業報告及び決算報告、令和5年度の同事業計画及び収支予算が報告されました。年々財政面で厳しくなっている状況のなかでも、工夫して運営されている様子が伝わりました。



設立50周年記念事業 障害者川柳 その9

本連合会では設立50周年記念事業のひとつとして、全国から「障害者川柳」を募集しました。

このコーナーでは寄せられた1,400句の応募作品の中からピックアップして、毎号ご紹介します。

解説 室井 泉柳

手話できる コンビニあれば ハマるのに

さごじょう

【解説】 これは入選作品のひとつですが、バリアフリー社会と言っても、まだ行き届かないところは多いですね。国連の「障害者権利条約」では「社会の障壁こそが障害をもたらしており、社会が障壁を取り除かねばならないこと。」とうたっています。



個性だと さらりと言える 君が好き

九(いちじく) 愛知県 女

【解説】 障害を「個性」と言い換えることについては、当事者の間でも賛否両論ありますが、「自分」を伝える時には、障害はそのうちの「一部」でしかないと考える考え方は共通しています。



家どこか 尋ねてみたら 我が夫

高橋正美 新潟市

【解説】 この作品も視覚障害者の方の入選作ですが、ひとり白杖を突きながら買い物や散歩などから自宅に帰る途中、「まちがない」と思って歩いていたはずの道が、気がつくと「ここがどこかわからなくなってしまった」などという事は全盲の場合、よくあることです。そんな時はもうパニックです。誰彼構わず声をかけて聞いてみたら、それが自分の夫で、そこは自分の家の前だったってこと、笑っちゃいますが、よくあることです。

聴覚障害者との心のこもった コミュニケーションのために

⑩ ありがとう

【ありがとう・感謝・お礼】



・左手の甲を上に向け、右手で手刀を作り左手の甲を1回ポンと叩いて、同時に頭をさげます。

令和5年度障害者相談員研修会

7月26日(水)10時から長岡市社会福祉センターにおいて、障害者相談員研修会が長岡市福祉課、当連合会、長岡市手をつなぐ育成会の共催で開催されました。昨年度に続き2回目の開催となります。

今回は、長岡市成年後見センター(長岡市社協内)の市野係長と竹之内主事を講師に迎え、「親亡き後の経済的な問題について~成年後見制度でできること~」について学習し、内容は主に知的・精神障害者の問題でしたが、誰もが認知症などにより自己判断ができなくなる場合を考えると、どのような方法があるのか、とても参考になりました。今後の相談業務に生かしていきたいと思います。(土田記)

【編集後記】

猛暑の中、長岡まつりの平和祈願祭をはじめ昼行事、花火が無事終わりすべて素晴らしかったが、その余韻も冷めぬうち、我が「身障連涼まつり」も笑顔と笑いに包まれ盛大に行われた。

今年は嬉しいことに4年ぶりに開催というイベントが多く見受けられた。

コロナ禍が長く続いたため、笑顔がマスクの中に隠れていたが、生き生きとした顔をするってことが戻ってきたのですね。笑顔っていいな。(K・K)

【事務局連絡先】

※ 投稿及び連絡は下記メールにお願いします。

メール: nagaokasinsyou@yahoo.co.jp

ホームページ:

<http://shinsyoren.web.fc2.com/>

